心と体を美しく

地域づくりフォーラム

●下○

新報移動編集局　南城ウイーク 2007

広域資源で観光振興

神事、伝統と共存課題

休日の南城市内はレンタカーが目立つ。「ここ数年の変化はすさまじいものがある」。市民の多くが口にする。南城市の旧四町村はもともと農業、漁業で生計をたてていた地域。静かな農村地帯の〝転換点〟は二〇〇〇年の斎場御嶽の世界遺産登録だ。登録を境に観光客が訪れるようになり、それと前後するように景観が良い場所にはおしゃれなカフェが建ち始めた。さらに〇六年の合併で市域は広がり、新たな視点でのまちづくりが始まっている。観光振興を図る上で市が抱える課題が広域に点在する資源を生かす「システムづくり」と「伝統や自然の保全」だ。

「神々の島」として知られる久高島には四、五年前から若い女性を中心に多くの観光客が訪れている。西銘政秀区長は「急激な変化に抵抗感もある」と明かす。年間二十以上ある神行事と観光の兼ね合いが、ここ数年の島の課題だ。島の北側は「神の領域」と信じられており、祭りの日は立ち入り禁止となる。〇六年には大型連休中に祭りがあったが、立ち入りを制限した。

西銘区長は「『せっかくたくさんの人が来ているのに』という声もあったが、神行事が久高を久高であらしめている。とえ一カ月のうち、半分が立ち入り禁止となってもいい」とあくまで「神行事が優先」との姿勢を見せる。

自然や伝統の保全と観光振興について古謝景春市長は「南城市は沖縄の豊かな精神文化が残っているといわれるが、それは自然への畏敬（いけい）の念だ。それをなくしてしまうことはあってはならない」と強調する。

南城市らしくあり続けるために必要な保全と、観光メニューを提供するシステムづくりは大きく関連している。古謝市長は「持続可能な観光とは、苦にならずみんなが楽しく続けられること。そのためには地域が主体となって人を呼び込むシステムをつくっていくことだ」と話す。地域再生マネジャーの佐藤和幸さんも「南城市では訪れた人それぞれにあったメニューを提供できる素材がある。それを生かすには地域に精通し、医療についても歴史遺産についても説明できるガイド、コーディネーターが必要だ」として、現在活動しているガイドのさらなる向上に力を入れる考えだ。

歴史、伝統、自然を大切にした南城市らしい観光、まちの発展に向け、南城市は大きく動きだしている。（玉城江梨子）

休日には観光客が途切れることなく訪れる斎場御嶽。駐車場にはレンタカーが並ぶ＝南城市知念

◇　◇

新報移動編集局「南城ウイーク」地域づくりフォーラム（主催・南城市、琉球新報社）は、十三日（金）午後七時から南城市文化センター・シュガーホールで。